

1 研究主題

「社会の形成者としての自覚をもつことのできる児童生徒の育成」

2 はじめに

新学習指導要領における社会科の基本的な考え方として、「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成」が示されている。これを受けて、令和3年度から本研究会は、「社会の形成者としての自覚をもつことのできる児童生徒の育成」という新たな研究主題を設け、授業実践に取り組んできた。特に「社会の形成者としての自覚もつ」ということを「よりよい社会や幸福な人生の作り手となる自覚をもつ生き方」と捉え、自分のことだけでなく、社会全体のことにも目を向けられる児童生徒を育成することを目指し、研究を進めてきた。本研究会では、研究主題に迫るための手立てとして、社会的事象に対し、当事者意識をもって、選択・判断・表現できる場面を授業の中に取り入れることに重点を置き、授業実践報告を積み重ね研究を進めてきた。また、研究を通して新たに見つけた課題に対して検討を重ね、継続して児童生徒による「学び合い」を大切にしながら研究主題を追究していきたいと考えている。

3 研究経過

- (1) 毎月、小学校部会、中学校部会の各分科会に分かれて、授業実践の報告をしてグループ協議を重ねた。具体的には、各学校が研究主題の実現に迫るための手立てに沿った授業実践を行い、その授業の指導案や授業の力点をまとめた授業実践報告書を持ち寄り、グループ協議を通して研究を進めた。そして、その授業実践報告をもとに、さらに新たな授業実践を行うことで、研究主題に迫るための研究を積み重ねた。

- (2) 12月 今年度の研究方針の修正

これまでの授業実践を振り返り、さらに今後、研究主題に迫っていくための研究の方針を検討し直した。具体的には、研究主題に迫るための手立ての具体性や各学年における到達したい姿を明確にすることで、研究の方針や進め方を整理した。

4 研究の概要

(1) 研究主題に迫るための手立てと授業実践

児童生徒が当事者意識をもって、選択・判断・表現できる場面の設定

児童生徒が当事者意識をもつことのできる教材を用意すること、選択・判断・表現することのできる発問や資料の提示、振り返りの工夫などの場面設定を行う。このような活動を通して、児童生徒新たな考えを再構築し、社会的事象に対して自分の考えをもったり、行動を見直したりすることができると考え、授業実践の中に取り入れた。

(2) 授業実践報告を中心とした研究の推進

毎回の研究会の中心となったのが、各分科会に分かれて行った授業実践報告の共有とグループ協議による研究である。年度初めに担当割り振り計画を作成し、毎回の研究会で担当教員が、研究主題に迫るための手立てに沿った授業実践を報告し、グループ協議を行った。

資料・教材の扱い方や関連資料についての情報交換だけでなく、模擬授業形式での実践報告もされるなど多くの工夫が見られる会となった。そして、研究会後にも若手教員と経験豊かな教員とが情報交換する様子も見られ、有意義な時間が確保できている。また、小委員会を中心とした毎時間の研究会の進行や運営に対する反省、研究に対する方向性の検討についても濃密に行うことができた。

小学校部会では、ゴミ問題や防災の点において、社会的な見方・考え方を働かせながら自分だったらどうするかという視点を常に持たせられる資料や発問を用意している実践や、タブレットを活用し、調べたことや根拠を明らかにして全体で共有する実践などが報告された。

中学校部会では、生徒に身近な社会事象を教材化した実践や、生徒の気づきや個人での調べ学習の成果を足がかりに展開する授業実践やタブレット端末のソフトを活用し、社会的事象に対して考えた意見に投票をさせたり、他者の意見を共有しさらに自分の考えを書かせたりする実践などが報告された。

5 今後の課題

年度当初から研究主題を提示して研究主題に迫るための手立てを設定し、それに沿った授業実践を行うことで、研究会全体で同じ方向を向いて実践に取り組むことができたと感じている。また、選択・判断・表現する場面も授業の導入部や追究する時間、振り返りの時間など幅広くすることができるため、多種多様な方法で、児童生徒が考えられる実践報告が見られた。この研究の積み重ねが教科指導の実践力や指導力を向上させる上でも効果的だったのではないかと感じる。

しかし、研究主題に迫る上で、各学年の発達段階での目指す姿に差が出てしまっており、目指す子ども像をより具体的に修正していく必要性も感じている。実際に児童生徒のどのような姿が見られたら研究主題に迫ることがで

きているのかをということがまだまだ明確ではないという課題が残っている。

そこで、今後は来年度に向けて、新たに「育てたい子ども像」を検討し、各発達段階に応じて、このような児童生徒の姿が見られたら研究主題に迫っているという具体的な姿を設定する。その姿が見られるようにするためには、どういう手立てを講じる必要があるのか、研究の仮説をしっかりと立てながら、授業実践を通して検証していきたい。